

職業実践専門課程の基本情報について

平成28年7月1日現在

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
横浜国際福祉 専門学校	昭和62年3月20日	坂本 翔子	〒227-0053 神奈川県横浜市青葉区さつきが丘8-80 (電話) 045-972-3294			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際学園	昭和62年3月20日	井上 一	〒227-0053 神奈川県横浜市青葉区さつきが丘8-80 (電話) 045-972-3294			
目 的	本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、社会福祉に関する専門知識並びに技術を習得させ、職業若しくは实际生活に必要な能力と一般教養の向上を図り、国際的視野を有する人材の育成を目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・ 社会福祉	専門	介護福祉学科	2年(昼)	1978.5単位時間 (又は単位)	平成7年文部大臣 告示(文部七)	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1177.5単位時間 (又は単位)	345単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	456単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	43人	6人	16人	22人		
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■1学期：4/1～9/15 ■2学期：9/16～3/31 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 各学年の教育(養成)課程修了は、生徒の平素の成績を評価し、学年末において行う試験等による成績考査に基づき認定を行う。 2.成績は、100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 	
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4/1 ■夏 季：8月中旬から10月上旬までの約8週間 ■冬 季：12月下旬から1月上旬までの約1週間 ■学 年 末：3月中旬から4月上旬までの約2週間 			卒業・進級条件	本校所定の全教育(養成)課程を修了したと認められた時、卒業を認定する。	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 本人や保護者(保証人)と連絡・面接を重ね現状の改善を図る。 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 学校祭、海外理解研修、ケアスタディ報告会、国内研修 ■サークル活動 (有・無) 	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム等 ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 100% ■その他（任意） 進学 0%	主な資格・検定	介護福祉士
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 11% 平成27年 4月 1日 在学者 38名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年 3月 31日 在学者 34名（平成28年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、学習上の理由 ■中退防止のための取組 1. クラス担任制をとり、定期的に個人面談を実施 2. カウンセラーの配置（週1回） 3. 学習課題をもつ学生の面談と個別指導の実施		
ホームページ	URL: http://www.yicsw.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業との連携の中で、業界団体等の役職員、有識者代表、企業・関係施設の代表として教育課程編成委員会に委員として諮問機関として、教育課程の編成・改善に関する意見、提言を受けつつ、本校の設置する既存卒業要件科目の中で独自科目の設置・変更等に反映し、学生の職場での即戦力化、定着化の一層の改善を図る。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
豊田 宗裕	聖徳大学 心理・福祉学部社会福祉学科 准教授
矢部 一郎	サービス付き高齢者向け住宅 桜山ハイム結生 代表
甘粕 弘志	公益財団法人 横浜市福祉事業経営者会 事務局長
伊東 一郎	横浜国際福祉専門学校 副校長
齊藤 大輔	横浜国際福祉専門学校 教務部長

(開催日時)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

連携する施設での実習に関して、事前打ち合わせ、実習現場での施設の実習指導員からの指導、本校教員による巡回指導時の実習状況把握を基に校内での演習内容の充実・改善につなげる。

科目名	科目概要	連携企業等
実習 I[1年次]	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行うことに重点を置いた実習である。	介護老人保健施設・介護老人福祉施設
実習 I[2年次]	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行うことに重点を置いた実習である。	認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護・障害者支援施設
実習 II[1年次]	実習 Iの体験を踏まえて「一つの実習施設や事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で利用者の個別性を尊重した介護計画を作成し、それに基づいて介護を実践する。実践後に評価考察をし、さらに計画の修正といった一連の介護過程を学ぶ」ということに重点をおいている。実習 IIでは、個別ケアについて深く学ぶ。	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設(入所)
実習 II[2年次]	実習 Iの体験を踏まえて「一つの実習施設や事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で利用者の個別性を尊重した介護計画を作成し、それに基づいて介護を実践する。実践後に評価考察をし、さらに計画の修正といった一連の介護過程を学ぶ」ということに重点をおいている。実習 IIでは、個別ケアについて深く学ぶ。	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設(入所)

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校「教職員の研修に関する規程」第2条において示す、「教職員に現在就いている職、又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質の向上を図ることを目的とする。」、また、第3条第2項において「校長は必要と認められるときは、実践面でもより効果的な研修計画作成のために外部の有識者、関連団体諸氏等に意見、提言を求めることができる。」と規定しており、執務を通しての研修と執務を離れての研修の場で、学生にとってより良い学びの場にするべく研修を通して改善を重ねることを基本方針としている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
豊田 宗裕	聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 准教授
多田 純夫	白根学年児童寮 施設長
坂本 翔子	横浜国際福祉専門学校 校長
伊東 一郎	横浜国際福祉専門学校 副校長
佐々木 卓	横浜国際福祉専門学校 事務長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.yicsw.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.yicsw.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の理解Ⅱ [人間の尊厳と自立]	人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立と自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる基礎を理解する。	1 前	30		○		
○			人間の理解Ⅰ [人間関係とコミュニケーション]	人間としての尊厳と保持と自立について考え介護実践の為に必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うための学習をする。	1 後	30		○		
○			社会の理解Ⅰ [基礎的理解]	1. 社会構造を様々な視点(労働、教育、家庭等)から理解すると共にわが国の社会的状況について理解する。 2. 社会保障の概念から福祉施策、介護保険制度のサービス利用の流れ等基本的な理解をする。	1 後	30		○		
○			社会の理解Ⅱ [制度の理解]	わが国の社会保障の考え方、歴史と変遷、しくみについて説明する。障害者自立支援制度について説明すると共に、介護実践に必要な視点から基礎的知識を学習する。	2 前	30		○		
○			法 学	社会規範(法)の必要性を理解し、その目的・機能等を学習する。更に社会福祉に携わるには必要不可欠な制度について考える。	1 前	30		○		
○			生活文化Ⅰ	授業を通して、利用者が暮らしてきた時代・生活習慣を学び理解を深める。生活文化が人々の努力によって維持・保存されてきたことを理解するとともに、今後の生活文化の動向や課題を考察する。	1 前	30		○		
○			労 働 法	先ず、労働法の中から、労働契約、賃金、労働時間、休憩、休日等の労働条件を学び、次に労働者災害補償保険法(労災法)から、その全体的な流れを学び、更に通勤災害・過労死等について考える。又、業務上、労働事故を起こしてしまった場合の事例を通して、法的責任の取り方について考える。	1 後	30		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			生活文化Ⅱ	自分で調べる力をつけ利用者が暮らしてきた時代、生活習慣を学びまた実際に体験をして理解を深める。またグループ学習（見学学習、発表）を通して自分の意見を発言する力を付ける。	2前	30		○		
○			介護の基本Ⅰ [尊厳と倫理]	介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援していく専門職として、基本となる考え方を学ぶ。	1前	30		○		
○			介護の基本Ⅱ [生活者としての視点]	介護を必要とする人の理解を深め人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解を深め、介護を必要とする人の生活環境の考え方を学び、生活の視点から知識を深めることを目標とする。	1後	30		○		
○			介護の基本Ⅲ [リハビリテーション]	「尊厳の保持」「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分達の生活に照らし合わせて考えていく。ICFの視点に基づく利用者のアセスメントを通し、リハビリテーションの実際を学ぶ。	1後	60		○		
○			介護の基本Ⅳ [チームケア]	介護サービスの概要では、ケアプランとケアマネジメントの流れ、しくみを介護の事例をもとに講義及び演習によって学ぶ。	2後	30		○		
○			介護の基本Ⅴ [リスクマネジメント]	利用者にもっとも身近な介護従事者が介護の理念を実現するために、既習の倫理・知識・技術を統合し利用者や生活の観点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連づけ、多様な介護現場で利用者の生活を守るべくセーフティマネジメントを展開する為の基礎的な力を培い、応用力を高める。	2後	30		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			コミュニケーション技術Ⅰ	様々な介護場面において、専門家として適切な支援を行う為には、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要となる。そのため、介護者には高いレベルのコミュニケーション技術が要求されることになる。この授業では、コミュニケーションの基本（介護におけるコミュニケーション技術（話を聴く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法等）の修得を目指す。	1 前	30		○		
○			コミュニケーション技術Ⅱ	介護は対人援助に関わる多職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法（記録・報告・会議）について学ぶ。	2 後	30		○		
○			生活支援技術Ⅰ [生活支援]	介護福祉士が利用者及び家族への生活を支援する為に修得しておかなければならない、個々人の尊前に根ざした、その人らしい生活とは何か、自分の経験を踏まえて振り返る。この授業でもっとも大切なのは、利用者及びその家族のその人らしい生活を支援するということを体験的な学習を通し、考える姿勢を身につけることである。	1 前	30		○		
○			生活支援技術Ⅱ [介護技術]	<ul style="list-style-type: none"> ・人間として当たり前である安楽な睡眠の願いが果たされない高齢者や障害者の生理、心理を十分に理解し環境整備やベッドメイキングを学び、利用者の心身状況や個性に応じた臨機応変な安眠のための介護の力を養う。 ・その人がその人らしく生活するための衛生管理と楽しみとなることを目指した「身じたく」の介護のプロセスと方法を学ぶ。 ・「移動技術」は他の介護技術とも連動して行われるため、基礎技術と応用技術を充実させて教授し、技術の修得を図る。 	1 前	60			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			生活支援技術Ⅲ [介護技術]	自立に向けた生活支援の方法をICFの視点に基づいたアセスメントを通して学ぶ。特に生活支援の中心となる①食事②清潔③排泄を通して、基本的な介護方法を理解し、技術の修得を目指す。	1後	60			○	
○			生活支援技術Ⅳ [形態別介護技術]	寝たきり、認知症、肢体不自由、内部障害、視覚障害、聴覚障害のある人の介助時の留意点について学ぶ。また、PT, OT, ST や医療従事者等の他職種との連携によって利用者のQOLが高まるような方法を学ぶ。	2前	60			○	
○			生活支援技術Ⅴ [家事援助]	介護福祉士として修得しておく必要のある様々な「家事」の援助技術を修得していく上での基本行動の理解と知識、家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活用できる能力や利用者の個別性に対応するための能力を修得する。	1前	30		○		
○			生活支援技術Ⅵ [居住環境]	学生がもっている生活観は、各々日常生活背景や生活の違いによって様々であり、障害のある人や高齢者の生活を理解するのに十分ではない部分がある。そこで、居住環境という具体的な生活支援の過程で、どのようにニーズを発見していくか、どのようにそれを具現化し、他職種との連携・協働していくか等を学習する。	2後	30		○		
○			生活支援技術Ⅶ [終末期の介護]	衆案月の介護について、介護福祉士の役割を果たす力量をつけるために、借り物でない理念、知識、技術を鍛え、個々の利用者特有の終末期の状況をアセスメント、ケアプラン、実践へと応用できる力を身につける	2後	30		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			介護過程の展開 I	すべてのケアは支援者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えた上で成立している。支援を提供する対象が誰であれ、どのような生活場面であれ、課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。この科目ではワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。	1 後	60		○		
○			介護過程の展開 II	介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決方法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していく為に必要な介護のあり方を、個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを、演習を通して理解する。 介護過程の展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって、異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解し、スキルを高める。	2 前	60		○		
○			介護過程の展開 III	現場では利用者の多様なニーズに応えるため、他職種の連携が求められている。その中でより専門性の高い介護を提供するために「介護過程」の思考のプロセスやスキルを持つことが重要である。介護過程を学ぶ最終段階として、模擬カワリスを通して共同的問題解決を中心に、介護実習との相互性を活かし実践的スキルの修得を目指す。	2 後	30		○		
○			介護総合演習 I-1	介護実習の意義、流れについて理解し、1 年次前期に実施される通所介護実習、介護老人保健施設での実習、訪問介護実習への準備を行う。	1 前	30			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			介護総合演習 I-2	2年次に実施される実習内容（認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、ケアハウス、身体障害者療護施設、重度心身障害児施設、知的障害者更生施設）について理解し、実習の準備をする。	2 前	30			○	
○			介護総合演習 II-1	後期に実施される特別養護老人ホーム、介護老人保健施設での実習の準備のため、個別援助計画の立案に必要な情報収集の視点について学習する。	1 後	30			○	
○			介護総合演習 II-2	2年次に実施される実習Ⅱの実習施設について利用者の特性や事業所の特性について学習する。1年次の実習Ⅱの振り返りを行い、個別援助計画の立案、実施に向けての準備を行う。	2 前	30			○	
○			発達と老化の理解Ⅰ [人間の発達]	人間の成長と発達の基礎的な理解の為に誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟・生理的变化を自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージする。その上で老化に伴う心神の変化やそれが日常に及ぼす影響、老年期にみられる家族・地域での役割の変化や友人との別れなどの喪失体験、就労の変化による経済的不安等高齢者の気持ちについて理解する。また老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアを学ぶ。さらに、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活援助技術の根拠となる知識の習得を図る。	1 前	30			○	
○			発達と老化の理解Ⅱ [高齢者の健康]	高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活援助技術の根拠となる知識の習得を図る。	2 後	30			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			認知症の理解 I [医学的理解]	認知症の原因となる病気やその症状の理解では、日常生活への影響として見られる中核症状、周辺症状について理解する。またそれらが及ぼす認知症のある人の特徴的な心理と行動について医学的に理解する。	1 後	30		○		
○			認知症の理解 II [基礎的理解]	認知症のある人の心の変化、生活面への影響、支える家族の心の変化や生活面への影響について理解し、その支援の在り方を思考できる知識を身につける。サポート体制では、地域社会や社会制度等の人間関係や生活環境について理解し、その環境に働きかけることの重要性について理解を深める。	2 前	30		○		
○			障害の理解 I [基礎的理解]	障害に関する基本的な考えについて「人間の社会」と関連づけて理解を深める。また、障害のある人の生活・体験等を通して、障害者の審理・生活状況を理解し、生活支援技術について理解を深める。	1 後	30		○		
○			障害の理解 II [医学的理解]	医学的側面から、体験や障害をもつ人の講義やビデオ等を使用し、障害の知識及び具体的な症状とその背景や原因を知る。(内部障害・肢体不自由・難病)	2 前	30		○		
○			障害の理解 III [医学的理解]	医学的側面から、体験や障害をもつ人の講義やビデオ等を使用し、障害の理式及び具体的な症状とその背景や原因を知る。(言語・聴覚障害・発達障害・精神障害・視覚障害)	2 後	30		○		
○			こころとからだのしくみ I [こころのしくみ]	介護サービスに実際に提供する際の根拠を学び、理解していくための授業。こころは、人間のこころのしくみを理解し、演習等を通して介護実践との関係を深めていく。	1 前	30		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			こころとからだのしくみⅡ [睡眠・身支度・移動]	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくための授業。ここでは、こころとからだのしくみについての基礎的知識を基盤に、利用者の睡眠や身支度、移動等の生活を支える介護実践との関係を学んでいく。	1 前	30		○		
○			こころとからだのしくみⅢ [食事・入浴・排泄]	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくための授業。ここでは、こころとからだのしくみについての基礎的知識を基盤に、利用者の食事・入浴や排泄について生活を支える介護実践との関係を学んでいく。	1 後	30		○		
○			こころとからだのしくみⅣ [総合]	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくための授業。ここでは、こころとからだのしくみについての基礎的知識を基盤に、機能低下や障害について理解し、生活に及ぼす影響や観察のポイントについて理解を深める。	2 前	30		○		
		○	福祉カラーコーディネート	「色」が発する多様なメッセージ・心理的効果を知ると共に、色覚バリアフリーに関する認識を深める。 「色」と共感覚でつながる「香り」の効果および介護現場での活用の可能性を学ぶ	2 後	15			○	
		○	介護予防	介護福祉士として必要な介護予防を学び、身体機能を維持向上するための方法について運動を中心に理解を深め、介護現場で有効な実践力を養う。	2 後	15			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			医療的ケアⅠ	生活療養者への医行為の必要性について理解し、法制度の理解と倫理性について学びを深める。また、生活療養者の健康と急変時の変化が理解でき、安全・適切な介助を実践するための知識を学ぶ。	1 後	22.5 (※)		○		
○			医療的ケアⅡ— 1 (喀痰吸引)	高齢者及び障害児・者に対して適切な喀痰吸引ができるように、呼吸器のしくみについて理解し、安全で適切な喀痰吸引について理解を深める。また、喀痰吸引の実際について、留意点について理解し、適切な技術について説明することができる。	2 前	22.5 (※)		○		
○			医療的ケアⅡ— 2 (経管栄養)	高齢者及び障害児・者に対して適切な経管栄養ができるように、消化器のしくみについて理解し、安全で適切な経管栄養について理解を深める。また、経管形容の実際について、留意点について理解し、適切技術について説明することができる。	2 前	22.5 (※)		○		
○			医療的ケアⅢ (喀痰吸引・経管 栄養演習)	喀痰吸引、経管栄養について、演習を通して安全で適切な技術を身につける。基本研修評価を受け修了することができる。	2 後	45 (※)			○	
○			実習Ⅰ [1 年次]	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行うことに重点を置いた実習である。	1 前	120				○
○			実習Ⅰ [2 年次]		2 前	56				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			実習Ⅱ [1 年次]	実習Ⅰの体験を踏まえて「一つの実習施設や事業所において一定機関以上継続して実習を行う中で利用者の個別性を尊重した介護計画を作成し、それに基づいて介護を実践する。実践後に評価考察をし、さらに計画の修正といった一連の介護過程を学ぶ」ということに重点をおいている。実習Ⅱでは、個別ケアについて深く学ぶ。	1 後	120				○
○			実習Ⅱ [2 年次]		2 前	160				○
合計			50 科目		1978.5 時間 (単位)			

(※) 実授業時間数を記載